

昭和4年(1929年)

女子部の設置

益田農林学校が開校して五年。

それまで男子校だった学校に、ついに女子部が設置されました。

女子部の設置

現在の益田清風からは実感がわきませんが、昔、本校は女子部と男子部に別れていました。

女子部は本校が設立されて五年目(昭和四年)に作られ、最初の入学者はたったの三十人でした。これは当時の下呂市の人口(今の下呂市の二倍)からすると、とても少ない人数のように思えます。

しかし、当時の女子は教育を受ける人が少なく、工女として製糸業などで働く人が大半を占めていたため、三十人という数は決して少ないとは言えませんでした。現代の男子もやりたがらないような蚕の世話なども女子が行っていました。女子部と男子部は玄関が西と東に分けられていたため、校内で個人的に会話することはなかったそうです。

○男女共学の現在とは異なり、教室も中央玄関を境に西側は男子、東側に女子、昇降口も運動場も別々で男女が個人的に話し合うこともありませんでした。ただし、朝礼や運動会、弁論会等の各種行事は一緒に行われていました。当時の学校は二階建て校舎一棟、中央廊下を挟んで西側に講堂養蚕室、東側に礼法室、男子寄宿舎、食堂、炊事場があり、その外庭前には温室二棟と校舎東側に牛舎鶏舎もありました。男子も女子も農業実習は正課で肥桶を担ぎ作物の手入れをし、養蚕時期ともなれば摘果収穫真綿作りまで教わりました。

○創立から九年目の昭和八年、農林

坂の桜洞へ通じる道路から校門に向かっての両側の、ダイヤモンド仕立の整った果樹は見事で、その梨の花づきや、結実の姿は異彩をはなっており、すべてが充実したときでした。昭和二十年を頂点とする国難に、私の奉職していた期間の卒業生各位には、年令的にほとんどが出陣なされ、大変御苦労をかけた。私は此の稿を書くにあたり、多数の今は無き学友の英霊に深く頭を下げ、つつしんで合唱しているのであります。

野首秋蔵「益高五十年」より



益田農林学校の制服

○最初に行ったのは校服縫いからでした。えび茶色の綾木綿の単衣に紺色の袴を着用して農林なので作業服も作り農作業などに使われていました。その約六年後に女子部にセーラー服が採用されました。

今井せい「益高五十年」より

